

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名 称	シナカルセト治療歴のある PTx 症例の骨関連アウトカムと骨血管連関 についての検討
氏 名	溝渕 正英
所属機関	昭和大学医学部内科学講座腎臓内科学部門
<p>本研究では、多様な骨血管連関の一側面に焦点を当て、骨代謝がダイナミックに変化する副甲状腺摘出術 (PTx) 後の経過に着目し、術直前までシナカルセト治療歴のある PTx 症例の、術後の骨代謝や骨関連アウトカムについての特徴や、心血管石灰化進展との関連について、シナカルセト治療歴のない PTx 症例と比較検討することで、骨血管連関の側面からの重度の二次性副甲状腺機能亢進症症例に対するシナカルセト治療の意義について検証することを目的とした。</p> <p>PTx 施行症例で、シナカルセトが PTx 前まで投与されていた群と非投与群の比較では、同程度の iPTH 値にもかかわらず、シナカルセト投与群の方が、術後の ALP の上昇率や血中 Ca 濃度の低下量が小さかった。この結果からは、シナカルセト投与群では PTx 後の hungry bone syndrome (HBS) の程度が抑制されていることが示唆された。元来 HBS では血中 Ca や P のミネラルが骨に取り込まれる結果、骨量が著明に増加するが、HBS が抑制されると血中のミネラルの骨への取り込みが低下し、その結果ミネラルの血中への溶解量が上昇して血管壁その他の組織への沈着が惹起されやすくなることが想定された。副甲状腺組織と HBS との関連では、シナカルセト投与群と非投与群で、副甲状腺重量や結節性過形成の頻度に差はなく、シナカルセト投与と HBS の抑制の関連性は今後の検討を要する。また、骨血管連関の概念を念頭に、PTx 直後の HBS の程度の差が、血管石灰化進展に影響するのかの検討は、PTx 後の患者の生命予後の観点から非常に重要である。これまでの成績をもとに、PTx 前の治療内容によって、PTx 後の冠動脈石灰化の進展にどのような違いがみられるのか、またその機序について、摘出副甲状腺の分子生物学的検索や、新規の骨代謝や血管石灰化関連マーカーの変化など、引き続き検討を進めていきたい。</p>	